

エネルギー資源の儉約と浪費

親愛なるムスリムの皆様。世界にあるものは全て人間の為に創造されたもので、人間への奉仕を行うべき存在とされています。私たちが人間として行なうべきことは、許された手段を用いて働き、現世における必要性を満たすことです。この必要性を満たす際には、節度を持って振舞うべきということに疑念の余地はないでしょう。節度なく行なわれる消費はみな、浪費

となります。浪費は私た

ちの教えにおいて禁じら

れているものです。実際

アッラーは識別章第 67

節において、アッラーの

誠実なしもべについて

「また（財貨を）使う際

に浪費しない者、また吝

嗇でもなく、よくその中

間を保つ者。」と定義さ

れ、浪費を行なうこと、吝嗇であることを禁じ

ておられます。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。飲み食いや衣装

などにおいて必要もない消費を行なうことが浪

費であるように、私たちの生活に必要な不可欠な

エネルギー源を考えもなしに消費してしまうこ

とは浪費です。私たちの文化や信仰には、「川

のほとりで礼拝前の清浄を行なう時でさえ、水

を浪費してはいけない」というハディースのメ

ッセージが根底に存在しています。それに反す

る行いは、浪費してはいけないという教えの見

解に従わないものとなるのです。

現代社会では、贅沢、見せ掛け、浪費は際

限のない状態に達してしまっています。捨てら

れるパン、廃棄される食べ物は何百万人もの飢

えた人々に十分なほどの量であるとされます。

助けを必要としている人を援助する代わりに、

浪費することを選択するのはムスリムに適した

振る舞いではありません。信者は、自分の振る

舞いが後に尋問にかけられることを認識しつつ

生きます。アッラーが禁じられた全てのことから

遠ざかるべく努めるのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。贅沢や見せ掛けの

為に行なわれる消費は、

社会の崩壊や後退の主

要な要因の一つです。

私たちの教えイスラームは、恵みが浪費され

てはいけないという点

について次のように警

告しています。「アー

ダムの子孫よ、何処の

マスジドでも清潔な衣

服を体につけなさい。そして食べたり飲んだり

しなさい。だが度を越してはならない。本当に

かれは浪費する者を御好みにならない」（高壁

章第 31 節）

崇高なる神が私たちに与えてくださった恵

みを、私たちは最良の形で生かさなければなり

ません。ただこの恵みが、私たちへの信託とし

て与えられたものであることも忘れてはいけま

せん。責任感を持ち浪費や吝嗇から遠ざかった

生涯を送らなければならないのです。今日のフ

トバを、ある聖ハディースによって締めくくり

ます。「うぬぼれることなく、また浪費するこ

となく飲み食いし、衣装を整えなさい。そして

サダカを払いなさい。」

